

会計学原理 I

科目ナンバリング ACC-103
選択必修 2単位

徳山 英邦

1. 授業の概要(ねらい)

会計は、「ビジネスの言語」と呼ばれています。会計学原理 I では、会計の目的、財務諸表(会計データ)の見方と会計システムを学修します。講義方法は、当日の学修テーマを概説し、演習問題で具体的課題箇所を実感してもらった上で、再度その学修意義を解説する手順で行います。会計の土台は複式簿記です。前期は、簿記の理解に根差した理解のために、簿記の記帳実践と関連づいた授業になります。

2. 授業の到達目標

経済学部での学びの中の本科目の役割として、以下の2つを当初の成果目標とします。

1. 企業経営における会計学の役割を理解し、説明できる。
2. 企業経営に関する基礎的理論、事業展開に必要な資金の流れを理解し、説明できる。

上記の学びの成果を基礎として、以下の2つを到達目標とします。

1. 実社会の出来事について自ら学び、吸収することができる。
2. 企業経営の場で生起する実践的課題に対処できる専門的な知識・スキルと態度を有する。

3. 成績評価の方法および基準

①自ら学び、吸収する不断(普段)の態度の評価として授業各回のミニッツペーパーや受講姿勢等(65%)、②専門知識の修得力評価として小テスト(2,3回)、LMSを活用した課題(35%)を目安として、総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

新田忠誓、他著 『会計学・簿記入門』(第17版) 白桃書房

参考文献

近田典行、他著 『基本から学ぶ会計学』 中央経済社

5. 準備学修の内容

「学びの種を蒔く回」と「収穫(修得)の実感を伴う回」のタイミングが各回で完結しない箇所があります。当日内の答えの照合をあせらずに、試行錯誤する時間を大事にしてください。過去2回分との関連学習60分、学習全体における今回の学びの位置づけの理解30分、その未消化領域の復習30分を目安に学習してください。

6. その他履修上の注意事項

電卓、3色ペン、各回に配布済みのプリントを毎回持参して下さい。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス(授業の進め方、成績評価、履修上の留意点)、学修の必要性
- 【第2回】 家計のパイの拡大と分配、そして企業のパイの拡大と分配
- 【第3回】 家計簿と企業会計(発生主義会計)の共通点と相違点
- 【第4回】 複式簿記の基礎:階梯式計算と勘定式計算、ダブルエントリー・システム
- 【第5回】 損益計算書と貸借対照表、そして利害関係者(ステークホルダー)の誘因と貢献
- 【第6回】 企業活動と経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報技術)、店と奥の分離
- 【第7回】 企業資本の委託・受託と会計システム(投資・消費及び浪費、出資・融資及び収益獲得活動の捕捉)
- 【第8回】 企業の財務諸表の入手方法と活用事例(損益計算書と貸借対照表の表示様式)
- 【第9回】 簿記一巡の流れと貸借対照表、損益計算書のつながり方(利用者として作成者の視点)
- 【第10回】 損益計算の基本原則(収益の実現と費用の発生、費用収益対応の原則、収支主義)
- 【第11回】 資産測定の基本原則(取得原価主義と費用配分の原則)
- 【第12回】 財務諸表の相互関連(表示様式とルール)
- 【第13回】 株式会社と会計(所有と経営の分離、株主有限責任制、直接金融と間接金融)
- 【第14回】 株主資本等変動計算書とキャッシュ・フロー計算書の役割
- 【第15回】 学修内容のまとめ